

陸上競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則令和3年度版（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本陸上競技連盟競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 感染症予防対策による時間短縮のため、知的障害50mとリレーは行わない。
- (2) 招集所は、陸上競技場第4ゲート付近に設ける。
- (3) スタートコールは、「イングリッシュコール」とする。
- (4) 不正スタート（フライング）は、1回目で失格とする。
- (5) 視覚障害者の50mは、競技役員によるハンドマイクに収納した音源又は許可された者（コーラー）による音源を用いる。
- (6) 視覚障害者の競走競技で伴走者ありの場合は、必ず紐等を持つこととする。紐は非伸縮性で50cm以内のものとする。
- (7) 投てきの試技は、3連投とする。ただし、2連投で行う種目もある。
- (8) 競技記録は、陸上競技場室内走路に設けた記録掲示板に掲示する。

3 その他

- (1) 「競技組み合わせ」(プログラム)に記載している各競技の招集時間を厳守すること。
- (2) トラック種目（スラロームを除く）に出場する選手は、大会当日招集所で配付する腰ナンバーカードを右腰（車いす使用者は右側の見やすいところ）に付けること。
- (3) 障害区分24（視覚障害者）の者は、光を通さないアイマスクまたはアイシェードを装着し競技を行うこと。また、招集所及びゴール直後にアイマスクまたはアイシェードの点検を行う。

(4) 競技場への入退場

競技関係者（選手・伴走者・競技役員・補助員等、直接競技運営に携わる者）以外の者は、トラック及びフィールド内に入場することはできない。

ただし、介助が必要である等として申し込み時に申請し、主催者の許可を受け、IDカードの配布を受けた者（介助者）は、この限りではない。この場合も、大会における介助者の役割をよく理解し、これを守らなければならない。

なお、上記競技関係者については、大会の公式な記録を取ることを目的に特別に事務局が許可した者を除き、カメラ類の持ち込みは厳禁とする。

- (5) 表彰式は行わず、種目終了後、該当者に対しメダルを指定の場所で授与する。

水泳競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則令和3年度版（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本水泳連盟競泳競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 感染症予防対策のため一人1種目の出場とするが、参加申込書には第2希望の種目まで記入すること。編成上1種目に集中しないように調整する場合がある。リレーは行わない。
- (2) 招集所はプール西側の選手控室に設ける。また、招集待機所を選手控室横の通路沿いに設ける（招集は電光掲示及びアナウンスによる）。
- (3) スタート及び入退水介助は、各参加団体に介助者を用意する。また、視覚障がい選手のタッピングの許可を得た者は、タッパーと棒を各団体に用意する。
- (4) 千葉県国際水泳場の水深は2mであるが、レースを実施するコースについてはスタートと折り返し地点に80cmの低床フローアを敷く。
- (5) 競技記録は、2階受付横に設けた記録掲示板に掲示する。
- (6) 感染防止のため競技、種目を行う時間以外の競技場等への入場を制限することがある。

3 その他

- (1) 「健康チェックシート」と「参加者名簿（兼傷害保険加入者申請書）」を、参加団体代表者は受付（2階アクアラウンジ、西側観覧席前に設置）に提出する。
- (2) サブプールを利用する一般利用者と大会参加者を分けるため、2階出入口を一般客用と大会用に分ける。
- (3) 表彰所は設けない。2階受付横で着順札と交換にメダルを受領すること。
- (4) 練習時間帯を種目順に割振る。始めは25m自由形のみとし、以降はアナウンスする。アナウンスする種目以外の練習はできない。また、25m及び50m自由形の練習時間帯に限り、競技用プールでも練習ができる。なお、公式スタート練習は行わない。
- (5) 水着は、FINA公認水着を原則とする。ただし、形状（身体を覆う範囲）等が競技規則・解説および次のとおりであれば許可する。
 - ①男子はへそを超えず、膝までとする。
女子は肩から膝までとする。ただし首、肩を覆うことはできない（セパレートの水着も可）。
 - ②素材は繊維のみとする。（ファスナーは認められていない）
 - ③競技規則に定めるロゴマーク等の規定に違反しないように注意すること。
- (6) 障害区分23（視覚障害者）の者は、光を通さないゴーグルを装着し競技を行うこと。また、ゴール直後にゴーグルの点検を行う。
- (7) 当日の競技は、別表の種目順に行うので、参加申し込み時に参考にすること。ただし、編成上、やむを得ず種目順を変更することがある。
- (8) 介助犬については、1階エントランスホールに待機所を設けるのでつなぐこと。

(別表) 種目順

1	25m自由形	6	50m背泳ぎ
2	25m背泳ぎ	7	50m平泳ぎ
3	25m平泳ぎ	8	50mバタフライ
4	25mバタフライ	9	200mリレー
5	50m自由形	10	200mメドレーリレー

卓球競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則令和3年度版（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本卓球協会制定の日本卓球ルール及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、体育館内本部席近くに設ける。
- (2) 競技用服装は、J T T A（日本卓球協会）承認のものでなくてもよい。
- (3) ボールは、直径40mmプラスチックボール（Nittaku）を使用する。
- (4) タイムアウト制は導入しない。
- (5) 1マッチは、5ゲームとする。マッチの勝敗は、3ゲーム先取した競技者を勝ちとする。
- (6) ボールパーソンは、各参加団体で介助者として用意する。
- (7) コートには、アドバイザー（監督、手話通訳など）または特段の理由による介助者を選手1人につき1人帯同することができる。ただし、特段の理由による介助者は、競技場内で競技者の競技上有利となるような助言等をしてはならない。
介助者（ボールパーソンを含む）を同伴する場合は、参加申し込み時に申し込む。
- (8) 対戦表及び競技結果は、体育館入り口付近に掲示する。

3 その他

- (1) 表彰式は行わず、競技終了後、該当者に対しメダルを指定の場所で授与する。
- (2) ラバーの張替えは、所定の場所で行うこと。

サウンドテーブルテニス競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則令和3年度版（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本卓球協会制定の日本卓球ルール及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 競技用服装は、J T T A（日本卓球協会）承認のものでなくてもよい。
- (2) 光を通さないアイマスク、またはアイシェードを装着し競技を行う。
- (3) ボールは、競技規則に定められた規格のものを使用する。
- (4) 1マッチは、3ゲームとする。マッチの勝敗は、2ゲーム先取した競技者を勝ちとする。
- (5) 場内が騒々しい場合は、主審の判断で一時競技を中断して静かにさせた後、競技を再開する。
- (6) 選手の移動介助は、各参加団体で介助者を用意する。
- (7) コートには、参加団体から出された介助者またはアドバイザー（監督、手話通訳など）を、選手1人につき1人まで帯同することができる。ただし、介助者は、競技場内で競技者の競技上有利となるような助言等をしてはならない。
- (8) 対戦表及び競技結果は、体育室入り口付近に掲示する。

3 その他

- (1) 表彰式は行わず、競技終了後、該当者に対しメダルを指定の場所で授与する。

アーチェリー競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則令和3年度版（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公社）全日本アーチェリー連盟競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、フィールド内本部テント付近に設ける。
- (2) 対戦表及び競技結果は、大会本部付近に設けた記録掲示板に掲示する。

ボウリング競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則令和3年度版（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）全日本ボウリング協会制定ボウリング競技規則及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

- (1) 招集所は、ボウラーズベンチとする。
- (2) 競技方法は、デュアルレーン（アメリカン）方式とする。
- (3) 競技は、すべてスクラッチ（ハンディキャップなし）2ゲームマッチとし、合計得点により順位を決定する。
- (4) 自動式ファウル判定機は使用しないで競技を行い、ファウルラインを超えても意図的なものではない限りファウルとしない。
- (5) オートマチックスコアラーの操作、個人記録カードの記入は、すべて競技役員又は競技補助員が行う。
- (6) シューズ及びボールは、各自で用意することが望ましいが、競技会場のものを使用してもよい（ハウスシューズは有料）。
- (7) 競技記録は、ボウラーズベンチ後方に設けた記録掲示板に掲示する。
- (8) ボウラーズベンチへの立ち入りは、競技役員、競技補助員及び競技者のみとする。

3 その他

- (1) 表彰式は行わず、競技終了後、該当者に対しメダルを指定の場所で授与する。
- (2) 競技者は、競技中ボウラーズベンチをむやみに離れてはならない。やむを得ず放れる場合は、必ず競技役員に申し出て了承を得ること。
- (3) 競技中の飲食・喫煙は禁止する。ただし、アルコールを含まない飲料をボウラーズベンチ外で飲むことは許可される。

フットベースボール競技実施要領

1 競技規則

全国障害者スポーツ大会競技規則令和3年度版（（公財）日本障がい者スポーツ協会制定）に定める以外は、同年度の（公財）日本ソフトボール協会オフィシャル・ソフトボール・ルール及びこの要領に定めるところによるもののほか、参加団体代表者会議確認事項による。

2 競技等

（1）チームの構成

チームの構成は、監督1名・コーチ2名・選手15名以内とする。

（2）各チームの監督は、試合毎にプレイヤーエントリー票を試合開始30分前までに競技本部に提出する。

（3）競技方法

試合はトーナメント方式とし、3位決定戦を行う。ただし出場チームが少ない場合は、リーグ戦形式で行う場合がある。

時間に余裕があればフレンドリーマッチを行うことができる。

同点の場合は、最終出場選手9名《DPを採用しているチームはFP（守備者）を除く》の抽選によって勝敗を決定する。

（4）ベンチは、原則として組み合わせ表の若い番号（トーナメント表の向かって左側に記載されているチーム）が一塁側とする。

3 その他

（1）表彰式は行わず、競技終了後、該当チームに対しメダル及び表彰状を指定の場所で授与する。

（2）関東ブロック地区予選会には原則として優勝チームが出場することとする。各チームから選抜する場合は、優勝チームの監督を中心に関係者で話し合いの上決定する。

（3）大会が中止となった場合の関東ブロック地区予選会代表チーム・選手の選抜方法は、参加団体代表者会議で決定する。